

住宅建築賞

入賞作品

審査委員長 坂本一成

委員 伊東豊雄、入江経一、植田 実、武田光史、
早川邦彦、松永安光、八束はじめ、山本理顕

第9回になる本年の「住宅建築賞」は、応募総数53点で昨年と同様な高応募数となった。また応募された住宅は昨年に増して質の高いものが多く、この「住宅建築賞」が更に意欲ある住宅設計者の関心を促していることをうかがわせた。

今回は特に「TOKYO REALITY」というテーマのもとに、最も現代的都市のひとつになった東京に相応しい住宅のあり方を求めた。このことは単に狭小の敷地等という悪条件にどのような住宅が出来るかといった対応を超えて、この東京に似つかわしい新鮮で積極的な住宅像を求めたと言える。

「住宅建築賞金賞」となった元倉眞琴氏の「星龍庵」は、狭小の敷地に効率的な生活スペース割りを取り、またその全体構成も明快な構成部品によって形成された節度ある良質の建物となっているが、それに加え近年多くの建築家が獲得した表現のためのボキャブラリーをその表現を超えた現実的水準で空間構成化することで東京に相応しい新たな住宅のタイプを提出したものとして高く評価された。

葛西潮氏の「角地の木箱」が単純な箱状のワンルームによって今日の住宅空間のひとつのリアリティ

を獲得していること、今川恵英氏の「Mint House」が無仮設による鉄筋コンクリート造の提案によって今までにない住宅の構成法を提示していること、加茂紀和子、タルディッツ・マニエール両氏の「ビジョンクエスト-4」が東京の土地事情を象徴する狭小の木賃アパートに、それを越えた新鮮な内部空間と形態を与えていること、そして山寄雅雄、坂茂両氏の「SUGAWARA ATELIER」が素朴な工法と単純な構成を果敢に試みることで今日の空間を形成していること等が特に評価されて「住宅建築賞」となった。

「富士裾野の山荘」は昨年この「住宅建築賞金賞」をとられた石田敏明氏の更に洗練された建物で、建築というより家具とでも言えそうな軽快感のある不思議な魅力をもつものであった。また「法行燈庵」はすでに3回この「住宅建築賞」を受賞している海野健三氏の、東京の下町に良く対応した住宅で、以前の作品に比べて、より手慣れた安定感のあるものとなっている。両氏のこのような実績をふまえ、更にこの新たな展開を評価して、これらの住宅の設計に対し「審査員特別賞」を贈ることとした。

(委員長・坂本一成)

住宅建築賞金賞

星龍庵(星野邸)

元倉眞琴

概 スタジオ建築計画
建築主 星野 克美
施工 西森建設
構造 S造



狭路駅前を走る騒々しい青柳街道から道一本を踏みこむと、静かで落ち着いた住宅地に入る。星龍庵は、そんなところに立っている。敷地は約16坪。東京で、新たに土地を購入して家を建てようとしたら、この狭さは例外とはいえない。そこで、元倉さんは施主である星野さんと一緒に、〈都市住宅〉のプロタイプづくりをはじめた。装飾的なものは一切排し、最小限の構造部品で、工業製品をうまく利用しながら、シンプルな構成をもつ住宅はでき上がった。厳しい条件のなかで、単なるプロブレム・ソルビングに終わっていない。生活のための機能的空間が、細やかな配慮をともなう緻密に積み重ねられている。清々しい〈敷地の都市住宅〉だと思った。(早川邦彦)

住宅建築賞

Les Célibataires
ビジョンクエスト-4th

加茂紀和子、タルディッツ・マニエール

概 セラヴィ アソシエイツ

建築主 概ビジョンクエスト

施工 概鈴木工務店

構造 木造



大ざっぱに20坪の敷地に延べ床30坪という典型的な高密度市街地住宅の大きさだが、実は5戸の単身者アパートである。法定床に入らないロフト・スペースをとってこの内容を「詰め込んで」ある。「東京リアリティ」の典型的な姿の一つといえる。しかし、この詰め込みにも拘らず、不思議に伸び伸びしているところが良い。昔懐かしい板組とモダンでスマートな階段のコントラストもいささかも分裂症ではない。都市的な空間活用のリアリズムの極端のようなプログラムなのに、何処かステージセット的でシニカルな雰囲気さえ漂うが、それが無理にとってつけた不自然な「デザイン」などではないことに好感をもてる。(八束はじめ)

住宅建築賞

Mint House

今川恵英

概 ティ・アイ・エス・エンドパートナーズ

建築主 今川 恵英

施工 概伊藤工務店

構造 TWFS-NT(木造+鉄骨構造)



鉄筋トラスを入れたエキストラノドメタルの穴だらけの箱を工場から運んで建て、穴からしみ出るわずかなノロにカマわずコンクリートを流し込み、型枠なしでRC構造としよう。現場では型枠も足場もいらないから、工期も短縮可能だ。同じ鉄骨トラスがそのまま露出して開口部というよりも透明な壁をつくる。更に水平に折れ曲がり屋根となって、ガラスだけで雨をささげる。こんなコンクリートの仮設の外郭の中に、仮設の木造で作られたインテリア。大胆極まりない実験を自分でやってのけた今川さんの、構造設計家としての開かれた意欲が快い。ディテールに収斂してゆく神経質さとは異質のこの住宅のなかに一線、長い間住みこんだ家や路地の一角のような暖かみがある。(入江経一)

住宅建築賞

角地の木箱

葛西 潮

概 葛西潮建築設計事務所

建築主 葛西 潮

施工 概大原工務所

構造 木造



東京近郊の比較的恵まれた環境の中で、大げさな身振りでなく、妙な屈折もなく、設計者の住宅に対する夢ガストレートに表現されている。新しい工法と架構のシステムの実験に積極的に取り組んでおり、それが内部空間に力強くあらわれていると同時に、細かなディテールの工夫も重ねてあり、そのことがこの住宅を単なる楽しな通俗性へと移行する前で、充分に踏みとどまらせている。惜しむらくはこの住宅が様々な実験にも力加わらず、あくまで閉じた美しい箱として成立していることであり、そのために極めて保守的な世界の終極とも見えてしまうことだろう。(武田光史)

住宅建築賞

SUGAWARA ATELIER

山寄雅雄、坂 茂

概 坂茂建築設計

建築主 菅原 一剛

施工 石綿建設

構造 木造+S造



この建物の実質的な設計者である坂茂さんは既成概念にとられない材料や構法の開拓者として既に定評を得ている作家である。その作品の中でもこの建物はロケーション、コスト、プログラムといった条件に対して誠に合理的かつ的確な対応を示しているように思われ、私はとりわけ感銘を受けた。いささか年長の者としてさらに言葉を加えるとすれば、住まい手の生活のプログラムそのものに対するより円熟な迫り、的確なスケール感のスタディーが坂さんの建築を一躍脱力あるものとするのではなかろうか。これは現場を訪れた複数の審査員の意見であった。(松永安光)

審査員特別賞

法行燈庵

海野健三

概 海建築家工房

建築主 小林 成一

施工 概海建築家工房

構造 木造



審査員特別賞

富士裾野の山荘

石田敏明

概 石田敏明建築設計事務所

建築主 下村 三恵

施工 概飯塚工務店

構造 鉄骨造+木造



法行燈庵



外観

建物の造りや素材の組み合わせ、照明の配置など、細部にまでこだわって設計された、印象的な建物である。



照明

照明の設計は、建物の造りと調和し、空間の雰囲気を演出している。特に、この白いオブジェは、照明のアクセントとして機能している。



照明

照明

建物の造りや素材の組み合わせ、照明の配置など、細部にまでこだわって設計された、印象的な建物である。



内観

建物の内部は、開放的で明るい空間となっている。特に、この大きな曲線的な木造りの構造は、空間のアクセントとして機能している。

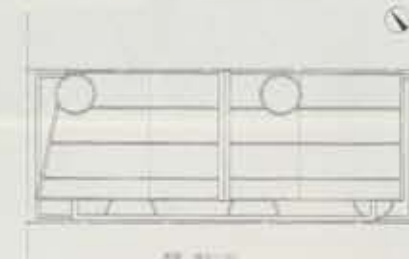
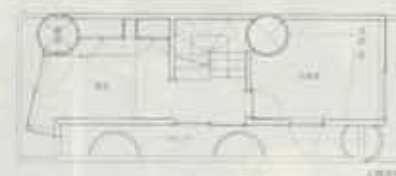


下町である、が近隣の家が建替えられる度に、上下左右の住人の顔がわからぬマンションの構図が平面に散らばったのと同じ街になりつつあった。そうしないための家の在り方を考えた。

表裏両方共2項道路、削った面積は36.75㎡、建ぺい率60%と厳しい。3種高度だったのが救いで本造3階建てを計画した。が総3階建てにしても住宅金融公庫の最低面積に達せず、文化的住宅でないからと融資不可だった。

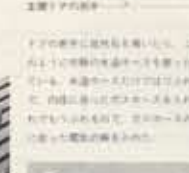
3層を貫く円筒型の部分は建ぺい率に入らない。内部に照明を入れて巨大行燈とし、家の主照明とすると共に街路をも照らすものにした。

階段が吹抜けとなるので冷暖房に弱いため、高断熱高気密住宅にした。



照明

建物の造りや素材の組み合わせ、照明の配置など、細部にまでこだわって設計された、印象的な建物である。



照明

建物の造りや素材の組み合わせ、照明の配置など、細部にまでこだわって設計された、印象的な建物である。



照明

建物の造りや素材の組み合わせ、照明の配置など、細部にまでこだわって設計された、印象的な建物である。

